

氏名	井上大作
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4478 号
学位授与の日付	平成24年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	CT fluoroscopy-guided cutting needle biopsy of focal pure ground-glass opacity lung lesions : Diagnostic yield in 83 lesions (病変全体がすりガラス陰影を呈する限局性肺病変のCT透視下針生検 : 83病変での診断率)
論文審査委員	教授 三好 新一郎 教授 木浦 勝行 教授 片岡 仁美

学位論文内容の要旨

CT 下肺生検は肺の固形病変に対しては高い診断率を持つ検査として確立されているが、**pure ground-glass opacity**(以下 **pure GGO** ; 病変全体がすりガラス影)を呈する病変に対しての有用性は明らかにされていない。この研究の目的は **pure GGO** 病変に対する CT 透視下肺生検の診断率を求めることである。

生検は CT 透視と **coaxial cutting needle** を用いて 83 例の **Pure GGO** 病変 (平均の腫瘍径は 12.1mm) に対して行われた。検体採取できなかつた例および最終診断が確定しなかつた例を除き診断率を算出した。また、病変を **diagnostic success** 群 (真陽性および真陰性)、**diagnostic failure** 群 (偽陰性および検体採取できなかつた病変) の 2 群に分け種々の項目について比較を行った。

結果として、**Pure GGO** 病変に対する CT 透視下肺生検の感度、特異度、陽性適中率、陰性適中率、正診率はそれぞれ 95%(58/61)、100% (5/5)、100%(58/58)、63%(5/8)、95%(63/66) であった。これは **GGO** 病変に対する肺生検について記した他の論文と比較しても良好である。**diagnostic success** 群となった 63 例と比較すると、**diagnostic failure** 群となった 4 例はより小さな病変で、胸膜からの距離が長く、肺下葉に多く、採取した検体数が少ない傾向であったが、いずれの項目でも統計学的有意差はみられなかつた。

結論として、CT 下肺生検は **Pure GGO** 病変に対しても高い診断率をもって施行可能である。

論文審査結果の要旨

本研究は、**pure ground-glass opacity (pure GGO)** を呈する病変に対する CT 透視下肺生検の診断率を求め、その有用性を明らかにすることを目的としている。申請者らは、83 例の **pure GGO** 病変に対して CT 透視下肺生検を行い、肺生検の感度、特異度、陽性適中率、陰性適中率、正診率がそれぞれ 95%、100%、100%、63%、95%であったと報告した。本研究は他の論文と比較しても、より多くの病変を対象とし、診断率も良好である。CT 透視下肺生検が **pure GGO** 病変に対しても高い診断率を持って施行可能であることを明らかにしたものであり、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。